

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかる喜び・できた喜びを味わうことのできる授業づくり
- 児童一人一人を大切に教育の推進
- 児童の特性と願いに寄り添った特別支援教育の推進

宝田小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

<b>学力向上推進員</b>	<b>委員</b>
齋藤 沙也佳	校長: 阪本 一雄      教頭: 野田 知栄子 教務主任: 青木 美恵      研修主任: 湯浅 美佐子

校長

阪本 一雄

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読み書きや計算については、基礎的な学習内容がほぼ定着している。 ○読書タイム等を活用し、静かに読書をする習慣が身に付いている児童が多い。 ●集中して課題に取り組むことが苦手な児童がおり、学力の二極化傾向が見られる。	・基礎的・基本的な知識や技能が確実に身に付き、学習や生活の場面で活用できる。 ・基本的な学習規律が定着し、45分の授業時間いっぱい学習活動に取り組むことができる。 ・ICT機器を積極的に活用することで、情報を正確に読み取ったり、必要な情報を選び出したりし、学習活動に生かすことができる。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、学びやすい板書や環境づくりに努める。 ・本時のめあてと振り返りを明確にし、学習活動に見通しを持たせ、計画的に学習を進める。 ・児童の実態に応じた個別指導を行う。 ・図書館サポーターとの連携やICT活用等を充実させ、学習理解の深まりや広がりを図る。		・個々に応じた学習の進め方を取り入れることで学習意欲向上を図れたが、学力の二極化は進んでいることから改善が必要。 ・本時のめあて、1時間の流れを掲示し、学習内容を明確にすることで、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫した。 ・ICT活用では、視覚的に情報を掲示することにより学習理解の深まりや広がりを図ることができた。 ・進んで読書を行う児童の割合が少ない。	・個別指導やTT体制等をさらに充実させる。 ・学習規律の定着、授業の導入や展開の工夫、振り返りの時間の確保、望ましい学習活動につながるよう継続した取り組みを行う。 ・タブレット等を効果的に活用し、授業の充実を図る。 ・家庭読書の日等を利用し、読書に親しむ場の設定を行い、読書の楽しさを味わえるよう更に工夫改善を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話をしっかりと聞き、自分の意見を書いたり話したりすることができる児童が多い。 ○タブレット端末の使用に慣れ、活発に自己表現できる場が増えた。 ●自主的・自発的な学習態度が十分には定着しておらず、考えを整理し、比較したり創造したり発信したりすることに課題がある。	・根拠や理由を明らかにし、筋道を立てて自分の考えを書いたり話したりしながら積極的に伝えることができる。 ・様々な考えや意見を比較しながら思考を深め、よりよい表現方法を身に付けていくことができる。 ・日常的にICT機器を使用し、主体的に学びを深めることができる。	・問題解決的な学習等、児童自らが課題を発見し、解決できる授業形態を推進する。 ・ノート指導を充実させたり、発問を工夫したりして、思考を深めるような授業内容を取り入れる。 ・ペア学習やグループ学習、他学年への発信等、考えを共有したり比較したりする場を積極的に設ける。 ・ホワイトボードやICT、新聞等を効果的に活用した多様な学習活動を展開する。		・意図的にペア学習やグループ学習を取り入れたことで、発表する際には積極的に取り組む様子が見られるようになった。一方で、相手の意見を踏まえて考えを述べたり思考を深めたりするための発問の工夫や指導について授業改善が必要である。 ・ホワイトボードやICT等を効果的に使用することができ、考えを整理して伝えることができる児童が増えてきた。	・ペア学習やグループ学習をさらに取り入れ、比較しながら思考を深めるための聞く力の向上や思考ツールを活用した表現力の育成を図る。 ・学級会等で、根拠や理由をはっきりさせて話し合う経験を積めるよう、話し合いの場を設定する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組む、最後までやり遂げようとする学習態度が身に付いている児童が多い。 ●生活リズムの乱れや忘れ物等から学習意欲に課題がある児童がおり、自ら計画的に家庭学習を進めることが苦手である。	・「学年×10分」以上の家庭学習に継続して取り組むことができる。 ・自らの学習課題をつかみ、解決できるように計画を立て、苦手なことにも取り組むことができる。 ・文字を書くことに興味・関心を持ち、粘り強く課題に取り組むことができる。	・「宝っ子学習」をもとに、学習規律を確立させ、授業態度の向上を図る。 ・「宝っ子のきまり」や「家庭学習の手引き」、学級便り等により、保護者の家庭学習への理解と協力を得る。 ・ドリルパークの活用や自主学習を推進する。 ・できた喜びや人に認められた経験を積ませるために、書写学習等の授業改善を図る。		・学習規律の定着を図るため、毎時間声かけをしてきた。児童の中には「宝っ子のきまり」の具体を把握できていないものもいて、啓発が不十分であった。 ・自主学習等を取り入れたことで、家庭学習が充実した児童が増えてきたが、家庭学習を積極的に取り組めていない児童もおり、工夫が必要である。 ・書写学習でICTを活用し、良くなったところを視覚化したり友達と褒め合ったりすることで、達成感を味わうことができた。	・「宝っ子のきまり」や「家庭学習の手引き」を指標にし、保護者との連携をさらに深めるようにする。 ・タブレット等のICTを児童が活用する機会を増やすと共に、その有効方法を教師間で共有する。 ・生活リズムを整えるために、早寝・早起き・朝ご飯がより定着するよう児童に指導するとともに、家庭との連携をさらに深める。

令和6年度 学力向上ロードマップ

